

# クッションフロア・ニュー住まいる

## 床暖房設備での施工方法

床暖房下地へ床材を施工する際は、床暖房による温度変化が下地や床材の伸縮、下地の水分の急激な上昇、コンクリート下地のクラックなどさまざまな問題につながる可能性があります。

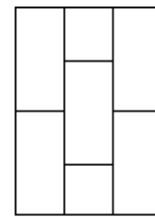
下記に推奨する施工方法を挙げますが、多少の問題が発生する可能性があることをご了承ください。

### 【A】パネル式・温水式の場合

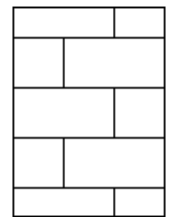
#### \*合板下地のポイント

- ・ 床材をパネルへ直貼りは出来ません。必ず、捨て貼り合板を敷き込んでください。  
(床暖房機材メーカーの説明書に具体的な下地施工の指示がある場合はそれに従ってください。)
- ・ 5.5mm以上の合板を2層構造としてください。  
合板は千鳥にずらして貼ってください。
- ・ 上層の合板は下層の合板と方向をクロスさせて千鳥に貼ってください。
- ・ 2層の合板は接着剤とスクリーナー釘(ピッチ300mm以下)を併用して取り付けてください。スクリーナー釘は副材・下地合板を貫通し、根太まで留めることが望ましいです。  
接着剤が硬化する迄、下地施工後、1週間程度養生してください。  
(下地用接着剤：ウレタン系、変性シリコン系接着剤を線状に塗布)
- ・ 仕上げ床材施工の前に床暖房を24時間以上試運転し、下地合板の目地に段差、隙間、突き上げ等不具合の無いことを確認してください。不具合があればサンダーなどで補修してください。
- ・ 床暖房を運転しても、クラックや不陸が発生しない状態を確認してください。

1層目の配列例



2層目の配列例



- 【注意】 床材施工の仕上がりの良し悪しは下地の状態により大きな影響を受けます。  
乾燥している(下地水分率8%以下)こと、平滑であること、強度があること、汚れ、異物の無くきれいなことが必要な条件です。  
下地が不具合な状態で仕上げ床材を施工すると接着不良を引き起こし、床材のフクレ、浮き、目地開き等が発生しますのでご注意ください。

#### \*仕上げ床材の施工ポイント

- ・ 下地を掃除機などできれいに掃除してください。
- ・ 施工中は床暖房を運転状態(電源ON)としてください。  
(床暖房機材メーカーの説明書に具体的な通熱の指示がある場合はそれに従ってください。)
- ・ 床材の目地と合板の目地が重ならない様に割り付けてください。
- ・ 接着剤はウレタン系をご使用ください。床暖房運転のため待ち時間(オープンタイム)を目視、指触で指につかないことを確認してください。
- ・ 目地部はシームシーラーで仕上げてください。
- ・ 貼り付け後の圧着を入念に実施してください。  
巻グセが強い床材は12時間以上重しを乗せて養生圧着してください。
- ・ ガスやエアによるフクレ等の不具合は施工当日に修正してください。
- ・ すべての施工作业が終了し、接着剤が完全に硬化してから床暖房の運転を停止してください。(完全硬化までの時間は使用する接着剤の説明書に従ってください。)

#### <パネル式床暖房>



重ね貼り時はこの層がフローリングになります。

## 【B】コンクリート埋設式の場合

コンクリート埋設式床暖房の場合、下地の水分量と発生したクラックの補修が重要です。床施工前に下地の乾燥が不十分だと、床暖房の運転により水分が急激に上昇し、床材表面にフクレを発生させます。また水分の上昇はクラックを引き起こし、床材表面にミミズ腫れを発生させます。必ず下地は十分に乾燥させ、クラックの補修をしてください。

### \*コンクリート下地のポイント

- ・事前に建設工事にて、壁ぎわにコンクリート伸縮の遊びを確保するための伸縮目地を設けるように指示してください。
- ・床施工の前に使用温度+5℃程度（一般的には 35℃程度で運転）で床暖房を運転し、下地を十分乾燥させる（下地水分率 8% 以下）と共に発生したクラックをエポキシ樹脂などで補修してください。
- ・クラックを集中させるための誘発目地は床施工前に補修材で埋め戻し、十分に乾燥させてください。
- ・床暖房を運転しても、クラックや不陸が発生しない状態を確認してください。
- ・乾燥不足、ひび割れが 施工後のクレームとなりますので注意してください。

### \* 仕上げ床材の施工ポイント

- ・伸縮目地の上には床材は施工せずに、伸縮性のある樹脂（ウレタン樹脂など）で施工してください。
- ・誘発目地のクラックがコンクリートを貫通した場合、補修後は誘発目地の上には床材は施工せずに、伸縮性のある樹脂（ウレタン樹脂など）で施工してください。
- ・パネル式に準じて施工してください。

